

冬季見学会の報告：
兵庫県立「人と自然の博物館」を訪ねて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 通玄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025181

冬季見学会の報告 ～兵庫県立「人と自然の博物館」を訪ねて～

伊藤 通玄*

本会も団体加入している静岡県立自然系博物館設立推進協議会（自然博推進協）では、県立自然史系博物館構想（案）の具体化を図るため、これまでに神奈川県立「地球・生命の星博物館」（小田原市入生田）を手始めに、茨城県立「自然博物館」（岩井市大崎）、千葉県立「中央博物館」（千葉市青葉町）、滋賀県立「琵琶湖博物館」（草津市下物町）、群馬県立「自然史博物館」（富岡市上黒岩）など、最近設置された県立自然史系博物館を中心にした見学会を実施し、多くの知見・示唆・教訓を得てきた。その一環として兵庫県立「人と自然の博物館」（三田市弥生が丘）が本会の企画・立案に基づいて97年12月25日に実施され、本会会員8名を含む15名が参加したので、その概要を報告する。

往 路

J R静岡駅発7時39分のエコノミーこだまを利用して新大阪、J R神戸線で尼崎、J R宝塚線で三田駅に到着した一行は、駅前から神姫バスを利用して博物館が立地するフラワータウンに向かった。三田市は手元にある「都市データパック」（東洋経済新聞社：1998年版）によれば、住み良さ順位総合11位（1位＝砥波市、2位＝福井市）を誇る人口約10.2万人の田園文化都市で、恵まれた自然環境と快適な都市環境のAA都市であるが、J R三田駅周辺の旧市街にはその趣きはない。三田市の誇る快適な都市環境は神戸電鉄公園都市線沿いのニュータウンではじめて実感することができる。

周辺環境

「人と自然の博物館」は神戸電鉄公園都市線のフラワータウン駅のすぐ西、神戸（新開地）からは



写真1 人と自然の博物館本館（4階）
（3階以下は谷間にあるため見えない）

神戸電鉄横山駅乗り換えで約1時間、中国自動車道の神戸・三田ICから約5分の高位段丘を刻む開析谷に立地している。段丘上にはニュータウンの中核である真新しい高層住宅群が林立しているが、都市博覧会のメイン施設「ホロンピア館」を転用した全面ハーフミラー張り鉄骨4階建本館（丹下健三氏設計）の全容をフラワータウン駅側からは望見できない。このため、フラワータウン駅から博物館に向かう横断歩道の南西側にドーム型鉄筋コンクリート製のエントランスホールを設置して、総合案内およびチ

* 静岡県地学会会長

ケット販売を行っている。エントランスホールの南西側はバス 20 台、乗用車 100 台収容の共用駐車場となっており、ハナミズキ・モクレン・サクラなどの花木の植栽が「花と緑に包まれた公園都市」をアピールしている。時間的・季節的制約のため、博物館の南北の谷間を利用した深田親水公園まで足を伸ばすことができなかつたことが惜まれる。

利用案内

開館時間 午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(ただし祝祭日と重なるときは火曜日)
年末・年始(12月28日～1月4日)

交通

＜電車またはバスご利用の場合＞

- ・神戸電鉄「フラワータウン駅」下車すぐ。
- ・三田駅から神姫バス「フラワータウンセンター前」下車すぐ。

＜車ご利用の場合＞

- ・中国自動車道または六甲北有料道路、「神戸・三田I.C.」より約5分。

入館料(平成8年3月10日現在)

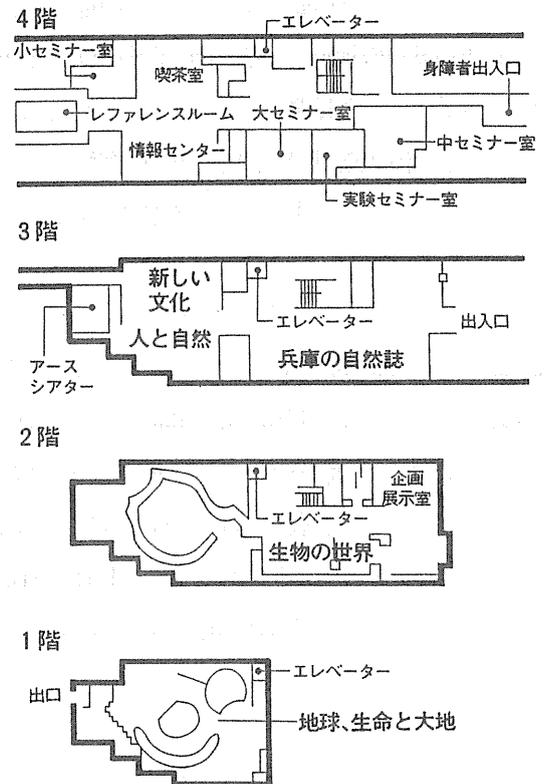
	個人	団体(20名以上)
一般	200円	150円
高校・大学生	150円	100円
小・中学生	100円	70円

*県内在住・在学の小・中学生は
ココロカードを提示すれば、入館料は無料です。



参考資料 「人と自然の博物館」総合案内から

●展示場案内図●



沿革・特徴

午後1時から約1時間、本館4階の中セミナー室で森俊雄普及課長および船越充情報管理課室長から館報1996年版・博物館情報システム案内などの配布資料による館の紹介があった。それによると、県立自然科学博物館の設置について、県議会に請願が行われ採択されたのが1969年。兵庫県自然保護協会から環境保全・自然保護活動に関連する博物館設置の要望書が提出されたのが1973年。自然系博物館建設基本構想が策定されたのが1986年で、三田市で開催された「21世紀公園都市博覧会」のテーマ館であった「ホロニア館」(全体と個の調和した理想の館の意)を転用して博物館建設を進めることが決まったのは1988年である。別館である鉄筋コンクリート3階建て研究・収蔵棟が完成したのは1991年で、本館に当たるホロニア館の様式替えが完了し、「人と自然の博物館」が設置され、館内に姫路工業大学自然・環境科学研究所が併設されたのは1992年である。

この館の特徴は姫路工業大学の自然・環境科学研究所と博物館が一体的に運営されており、博物館の調査・研究活動が地球科学8名、系統分類6名、生態6名、環境計画6名、生物資源7名、合計33名の研究員(専任9、兼任24)によって活発に進められている点である。

なお事務職員は総務課7名、普及課4名、情報管理室3名、技能労務職員1名、非常勤職員は館長1名、学習推進員2名の構成で、スタッフの合計は51名(専任27、兼任24)である。このほかに、ミュージアムメイト(外部委託)が12名体制で来館者を案内している。

別館の見学

別館は調査・研究・収蔵・保存棟(延床面積5,988m²)であり、スペース的にも、機能的にも充実していた。開館して6年目という新しい館なので、収蔵スペースも充分余裕があるように見受けられたが、数年後にはかなり手狭になるのではなかろうか。1階には電気室・自家発電室・仮保管庫・燻蒸室・石工室・化石処理室・地学系収蔵庫・浸液収蔵庫・微化石処理室・X線室・電子顕微鏡室・冷凍倉庫・動物解剖室・シャワー室・低温室・多湿収蔵庫・種子保存収蔵庫・空調機械室など、2階には生物系収蔵庫・環境系収蔵庫・環境系作業室・空調機械室など、3階には模型レプリカ室・製図室・5実験室・2化学分析室・昆虫標本製作室・動物標本製作室・飼育実験室・植物標本製作室・木材標本製作室・栽培実験室・研究用図書室・スタジオ・暗室・空調機械室などが配置されている。かなり広いスペースを割いている研究用図書室の充実が今後の課題のように見受けられた。

本館の見学

本館(延床面積12,222m²)の4階は総務・管理・調査研究・教育普及・情報処理・情報提供の諸部門が集中しており、総務課室・普及課室・館長室・次長室・応接室・喫茶コーナー・5研究部室・システムエンジニア室(電子計算機室)・情報管理室・レファレンスルーム・情報センター・3セミナー室(大・中・小)・実験セミナー室・3会議室・機械室などが配置されており、収集された各種情報が適切に処理され、情報センターその他を通じて提供される体制となっている。

本館3階は「兵庫の自然誌」(兵庫自然・森と里・上昇する六甲など)、「人と自然」(自然のデザイン・絶滅への道・地球環境問題)、「新しい文化」(環境に優しい暮らし方・人と自然の共存)のテーマ展示、本館2階は「生物の世界」(生物の種・分布・進化・生態など)のテーマ展示のほか、企画展示室、アース・シアターが配置され、ホロンピアホール(定員500人)への通路がある。

本館1階は地球の構造と歴史、そこに住む動植物の歴史と現在をテーマとした「地球、生命と大地」の展示となっている。なお、深田親水公園へのアプローチともなっている1階出入口近くにはミュージアムショップがあり、「兵庫県立人と自然の博物館総合案内」その他の資料や関連グッズが販売されている。この出入口の西側に本館の一部であるホロンピアホールの1階入口がある。

普及活動

研究員による「自然とのふれあい」をテーマとした入門講座、自然科学教室(実習講座)「動植物の生態」・「人々の暮らしや環境」をテーマにした土曜セミナー、「人と自然の共生」をテーマとしたイブ

ニングセミナー（親子講座）、2泊3日のサマースクール（ユースセミナー）、現地調査会などのほか、普及課学習指導員（非常勤2名）による「こども理科教室」（自然観察）、研究員＋館外講師による「自然環境調査会」、大学院レベルの特別集中セミナー（環境教育・里山管理）、「ボランティア養成講座」（見学・講義・実習）、館外講師による「三田花の教室」（実技講座）など、多彩な活動が活発に展開されている。

情報システム

収蔵品管理・自然環境情報・展示情報・普及後方・景観情報・図書管理・研究支援・運営支援のサブシステムで構成されている。56万点を超える収蔵品管理システムでは、収蔵品に関する文字データと画像データを大型汎用電算機上のデータベースで管理し、館内端末から収蔵品の画像とデータを検索し表示することができる。画像の入出力用にハイビジョン対応のデジタルカメラやフルカラー入出力装置を備えている。

自然環境情報システムは、博物館が調査したり収集した県内の動植物・地質・化石などの地理的分布をデータベース化し地図上に表現するシステムで、県内の自然環境の特徴やその変遷を調査研究できる。展示情報システムでは、上記のサブシステムで得られたデータを、一般来館者が利用しやすい形で提供するほか、自然や環境に関するビデオの自由視聴ができる。来館者の質問に答えるQ&A機能も設けている。

普及広報システムとしては、パソコン通信のホスト局を設置しており、館の研究員と県民あるいは県民同士が情報交換できるようにしている。96年8月からインターネットのホームページを開設し、博物館の催事案内・Q&A・データベース検索・収蔵品画像サービスを行っている。その他のサブシステムは研究・管理用システムなので説明を省略する。なお、この博物館は、博物館情報システムに組み込まれたジーンバンク機能（貴重種・絶滅危惧種の評価・保全・増殖など）、シンクタンク機能（環境影響評価、地域振興と自然・自然資源の調和に関する提案・提言など）を持っている。

復 路

館内見学を終えた一行は、17時頃フラワータウン駅で神戸電鉄公園都市線に乗車、JR三田からJR宝塚線・京都線経由で新大阪駅に18時半頃到着した。ここで夕食を取り、19時26分発のエコノミーこだま（434号）で帰静した。

会員の見学希望時期と博物館の行事予定などの関係で、年末の繁忙期の日帰り見学会となったが、幸い好天に恵まれほぼ所期の目的を達成することができた。バックヤードを含む館内見学の機会を与えてくださった河合雅雄館長、終始懇切なご案内を頂いた森俊雄普及課長、深田英世指導主事、船越充情報管理室長はじめ、館員の皆さんに厚く御礼申し上げます。